

あとがき

西塩田地区の活性化を目指して、平成元年五月、「西塩田地区振興会」が設立され、将来の西塩田が如何にあるべきか、各方面から検討し、その理想像を求め実現するための活動が始まりました。

その活動の一環として、伝統ある西塩田を見直し、又、貴重な資料の保存と言う意味からも「西塩田時報」「西塩田公報」の復刻縮刷版の発刊が計画されました。

西塩田時報は大正十二年七月に創刊の産声をあげ、その後、戦争のために一時休刊に追い込まれたものの、昭和二十二年より再び発行され昭和三十一年五月「塩田町」の誕生によりその使命を閉じるまでの約三十年間にわたり発行されたものですが、この偉大な足跡は世に誇りうるものと言って過言ではありません。

「西塩田時報」の創刊は、小県郡下では、塩尻、浦里について三番目と言われます。そして、この「時報」の誕生には、明治四十五年、小学校同窓会の機関誌として創刊され、その後青年会と合併して青年団が年一回、大正十二年まで脈脈と発行され続けられてきた雑誌「鉄城」の存在の上に成り立っていることも見逃せません。古くから伝わる文化財の宝庫でもある、西塩田の面目躍如たるところでもあります。

創刊の言葉の中に、

『村内の状況を細大洩らさず掲載して、戸毎に及び出郷中の人達に贈り、社会問題について、私共の実生活について、より深き考察と、攻究を煩わし相共に村治の発展と向上とに資したい考へであります。』と記されています。

この編集方針の基に、西塩田村の動きが、一字一句の中に込められた「宝」をここに一冊に集約することが出来ました。この縮刷版が出来上がるまでには、上田市塩田公民館、野倉自治会、金沢直人氏、佐藤直道氏、黒坂幹雄氏、佐藤重幸氏から貴重な資料をお借りしましたし、重田勝人氏には写真を提供していただくと共に多くの助言を頂きました。又、昭和五十四年、東京大学の西田美昭教授が時報を一枚一枚撮影保存してあったマイクロフィルムのコピーの為、上田市立図書館の設備を使用させて頂くなど、各方面の方々の御協力により完成にこぎつけることが出来ました。

尚、上田市よりは多大の御援助を賜り、各自治会の御助力や、多くの方々から激励の言葉を頂き感謝にたえません。

発刊にあたって、原稿である「時報」は永年の歴史を物語るように、色あせ、破損し、触れるのにも細心の注意を払いながらの編集作業でもありましたが、それをかくも見事に印刷、製本して下さった大日本法令印刷株式会社の担当の皆様方に厚くお礼申し上げます。

出来る限り欠落を少なくしようと努力しましたが、発行の
事実が不明なものも含め、六号分だけはどうしても収集でき
ず欠落となってしまいました。御理解と御容赦を頂きたいと
思います。

この一冊が文化的歴史の一つの表れとして活用され、次代
に受け継がれて行くことを願ってあとがきと致します。

平成三年十月

西塩田地区振興会広報活動部長

吉田範夫

西塩田地区振興会

会長 樋口 實
副会長 樋口 昭
副会長 宮沢 新
副会長 大口 義明
常任理事 小林 政俊
竹内 勲
竹下 三男
池田 平一
小山 正恭
吉田 範夫
会津 一彦
塚原 菊一
安藤 友博

理事 支部長

広報活動部

小林 幸
小池 省爾
小山 幸
山極 利見
東川 義士
堀田 醇
竹下 滋
小池 一男
箱田 重也
上野 澄子
西沢 むめ子
東川 公子

西塩田時報〈縮刷版〉

頒布価格 7,000円

平成3年10月15日印刷

平成3年10月31日発行

編者 西塩田地区振興会広報活動部

発行 西塩田地区振興会

印刷 大日本法令印刷株式会社
長野市中御所3-6-25
